

学校名	北海道札幌北陵高等学校
-----	-------------

学校関係者
学校評議員
5 名

1 学校教育目標

- 1 ひとりひとりを大切に、その可能性を最大限に伸ばす教育
- 2 あらゆる機会をとらえ、調和のとれた人間形成をめざす教育
- 3 たえず向上しようとする旺盛な意欲のもと、充実した気力と強いじん体力を養う教育

2 年度の重点目標

学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）をバランスよく身に付けさせるための教育活動を積極的に展開する。

3 経営方針

- (1) 学習・指導方法を不断に改善し、授業で勝負する教員集団を形成する。
- (2) 特別活動を充実させ、主体性や多様な他者と協働する態度を育成する。
- (3) 自他の生命と人権を尊重し、いじめを絶対に許さない環境作りを推進する。
- (4) 分掌、学年相互の連携を密にし、組織力を生かした学校経営を推進する。
- (5) 様々な危機管理事業に迅速・的確・丁寧に対応できる学校体制を確立する。
- (6) 北海道アクション・プランに基づき、部活動指導にかかわる負担の軽減を図る。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果が期待できない】

			自己評価	学校関係者評価		
領域	重点事項	評価の観点	達成状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	1 学力の3要素を踏まえた「授業力向上」の取組を全教員で協同して行う。	□ 学習指導や評価の在り方について、組織的に研修を推進し、実践することができた。	B	1 各教科、教務部、学習コーディネート会議の連携を促進し、授業づくりに係る研修の充実を図る。	B	A
	2 家庭学習を充実させるとともに、質の高い授業づくりを推進し、主体的に学びに向かう姿勢を引き出す。	□ 必要な家庭学習時間を確保させるとともに、授業の中で主体的な学びの場面を設定できた。	B	2 生徒自身がアクティブに活動する授業方法の工夫により、生徒の主体性の向上を図り、家庭学習調査を活用して検証する。		
	3 教科の指導計画に基づき、PDCAサイクルを機能させ、適切に授業をマネジメントする。	□ 身に付けさせる力を明確にし、適切な評価を行い、学習改善につなげることができた。	B	3 授業で身につけさせる資質能力を明確にし、学習評価に形成的評価の観点をも具体的に盛り込む。		
	学校関係者の意見		・1年生から3年生まで継続した学習指導がしっかり行われており、新しい評価の準備も進んでいる。授業と評価も工夫して生徒の主体性を伸ばしてほしい。 ・生徒は与えられたものに取り組むのは得意だが、更に自ら課題を見つけて主体的に取り組む力を身につけてほしい。 ・先生方の研修に力を入れるとともに、生徒自身が充実した学習ができるように授業と家庭学習の連携が考えられていると評価します。 ・授業で身につけるべき力を指導者、生徒ともに共有することが大切です。 ・授業でも生徒が自分で考えて活動する取組を取り入れると、生徒も楽しく授業に参加し、積極的に取り組めると思います。			
Ⅱ 生徒指導	1 生徒に寄り添い、向き合うことを通して、自主的・自律的な生活態度を育む。	□ カウンセリングマインドをもって生徒に接し、自主的・自律的な行動を促すことができた。	B	1 支援的生徒指導の充実に向けて、適切な指導方法について研修を深める。	A	A
	2 すべての生徒が人権を尊重し、「いじめはしない、させない、許さない」という意識と態度を育む。	□ いじめ防止対策委員会において、定期的に情報を共有し、初期段階のいじめを認知し、組織的に解決に導くことができた。	A	2 日頃の生徒の態様を良く観察し、教員間で生徒の困り感を共有することで、いじめに至る前の人間関係から支援を行う。		
	3 情報を正しく安全に利用できるよう情報モラルの必要性や責任を理解させ、情報社会に参画できる態度を育む。	□ 授業やHr活動、講演会、啓発資料を通して、実効性のある情報モラルにかかわる指導が遂行できた。	B	3 1学年は導入期指導において、2学年は教科「情報」と連携し、情報活用のモラルについて、生徒に考えさせる指導を実践する。		
	学校関係者の意見		・部活動の生徒はしっかりしていてマナーも良く、地域活動への積極的な参加もあり、その頑張りも地域の方も評価しています。 ・部活動以外の行事や、日常においても地域のために貢献してくれています。生徒の個性に応じた活動のできる学校であると評価します。 ・生徒の情報を共有するための研修より日頃の先生方のコミュニケーションが充分になされているか、また生徒とのコミュニケーションが図られているかが分かる評価基準があると良いと思います。 ・いじめ防止に関する評価がAであることは心強いです。 ・携帯電話やネットワークの利用モラルについてはこれからも重要な課題となります。使わせながら学ぶことも考えてはいかがでしょうか。			
Ⅲ 進路指導	1 高大接続改革の理念を全教員で共有し、新しい大学入試制度に対応する。	□ 新調査書など必要な対応を計画的に進めることができた。	B	1 校外研修会に積極的に参加するなど高大接続改革の動向を早期に把握、動向を踏まえて具体的な対応策を柔軟に検討する。	B	A
	2 卒業後の進路先で主体的に活躍しようとする態度を育む。	□ 希望する進路先のポリシー等について十分研究させ、理解を深めることができた。	B	2 高大接続改革への大学の対応を見極めながら、生徒自身の大学研究や探究活動をととして、自ら課題を設定し解決する力を育成する。		
	3 定量データと個別面談に基づく緻密で適切な進路指導を実践し、生徒の進路希望を実現する。	□ 各種試験（考査、模試等）のデータをマネジメントし、教員全体にフィードバックできた。	B	3 各種模試と講習の連携を図るとともに、各教科における講習の目標と指導方法を全体で把握し、指導計画を策定する。		
	学校関係者の意見		・放課後や休日、長期休業中まで充実した進路講習等を実施いただき、感謝します。 ・大学共通テストへの対応、新しい傾向の問題への対応を積極的にお願いします。 ・指導のみならず、生徒自身が課題を設定し解決するという自主性が大切という意味で「学習指導」と「進路指導」のつながりの大切さを感じています。 ・新大学入試制度が回数を重ねられた場合は重点事項の項目も変化があるものと思います。			
Ⅳ 健康・安全指導	1 自他の生命を尊重し、自らの心身の健康意識を高め、管理できる力を育成する。	□ 生徒情報交流会や生徒理解支援ツールを活用し、生徒の心身の健康状況を把握できた。	A	1 生徒情報交流会や各種調査を継続して実施し、生徒情報の共有を行う。あらゆる教育活動において生命尊重の観点からの啓発を継続する。	A	A
	2 生徒の教育上の問題について、組織として対応し、機動的に解決する。	□ 生徒の欠席状況や学校での様子について、SC等と連携し、教員間で情報を共有できた。	A	2 健康相談部及びSCと学年の連携を密に行い、生徒の困り感の把握と、その対応を組織的に展開する。		
	3 交通事故や犯罪等に対する危機管理能力を育成する。	□ 交通安全・防犯等に関する取組を通して、日常の様々な危険について生徒自らが判断し、身を守ることができた。	B	3 たより、啓発資料等を活用したHr活動や各種講演会等をととして、生徒の危機管理能力を育成する。		
	学校関係者の意見		・健康、安全に関する指導に関して自己評価が高いことは保護者にとっても生徒達にとっても心強いことと思います。 ・スクールカウンセラーや相談室等の方の力添えも大きいものと考えます。不登校ゼロを目指して欲しいと思います。 ・地震時の一斉メール配信が良かったと思います。災害に備える教育を進めてください。 ・命を守る活動の評価が高く安心です。他者を思いやる心の教育をお願いします。 ・生徒、先生、保護者、その他の大人も含めた者どうしのコミュニケーションの活性化が子供たちの心を守り、強さを育むと考えます。			
Ⅴ 学校運営	1 分掌、学年、教職員相互のコミュニケーションを積極的にに行い、組織力を生かした学校運営を行うことができた。		B	1 課題を明確にした上で、各種打ち合わせや会議を機能的に実施し、共通理解のもと課題解決を進める。	B	B
	2 様々な危機管理事業に教職員間、関係機関等と連携して迅速・的確・丁寧に対応することができた。		B	2 危機を予防する観点から教育計画を立案し、円滑に報告、連絡、相談のできる体制を作る。また、関係機関との連携を継続して推進する。		
	3 北海道アクション・プランに基づき、年間73日以上部活動休業日を設けることができた。		B	3 「学校における部活動に係る活動方針」を策定し、適切な休業日と活動時間を指導計画に反映、実施することで合理的かつ効率的に部活動を運営する。		
	学校関係者の意見		・先生方は全ての教育活動に力を入れてくれています。健康にご留意ください。 ・部活動で子供が育つことも多く、その意味は大きいですが先生方の負担も大きいのではと感じます。部活動顧問の複数配置を続け、外部指導者の活用なども検討ください。困った時にはPTAや同窓会、地域にも相談ください。 ・講師や期限付教員の人材が不足していると聞きます。欠員の補充については教育の停滞を招かないよう道教委を含めた制度、人材育成の充実について、より声を上げていただきたいと思います。 ・北海道アクションプランの内容を保護者にも知っていただき、協力を求めることが必要と思います。その他、あらゆる面で様々な情報共有を図ることが大切と考えます。 ・部活動や顧問の考えで活動方針が異なるのは困るので、学校としての活動方針を定めることは必要と思います。			